

鈴木信太郎記念館だより

創刊号

鈴木信太郎記念館開館記念事業報告

2018年3月28日に開館した当館では、開館後1年間で実施する区民向けの主要事業については、「開館記念事業」と称して、全6回企画いたしました(第3回は講師体調不良のため中止)。おかげさまで、実施したいずれの回も大勢の方々にご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。開館記念事業に加えて、4月と5月の毎週土曜日、6月以降の毎月第3土曜日に「展示見どころ解説(7月よりギャラリートークと改称)」を行ってまいりました。今回は、それら事業の概略について、ご報告いたします。

第1回「鈴木信太郎先生とフランス文学」講師：菅野昭正氏(東京大学名誉教授)

5月6日(日) 14:00 - 15:30 会場：南大塚地域文化創造館 参加者：40名

最初の開館記念事業として、東京大学で信太郎の指導を受けた文学者であり、現在は世田谷文学館館長である菅野昭正氏をお招きし、ご講演いただきました。教育者・研究者としての信太郎とプライベートでの信太郎の人物像、信太郎やご自身の研究対象であるステファヌ・マラルメをはじめとする詩人や文学者の紹介など、フランス文学に詳しい方もそうでない方も楽しめる分かり易い内容でお話いただきました。

第2回「旧鈴木家住宅建物解説・見学会」講師：大平秀和氏(協同組合伝統技法研究会)

5月19日(土) 14:00 - 15:30 会場：鈴木信太郎記念館 参加者：18名

記念館開館に向けて2017年度に実施した「(仮称)鈴木信太郎記念館保存改修工事」の設計および監理を担当した大平氏による建物解説・見学会は、座敷棟で保存改修工事の概要や工事の際に判明した事項・工法の特徴などについてお話いただいた後、通常非公開としている書斎棟2階も含め解説付きで見学を行いました。参加者からの積極的な質問もあり、大変盛り上がりしました。

第3回「マラルメの『大鴉』」講師：柏倉康夫氏(放送大学名誉教授)

6月2日(土) 講師体調不良のため中止といたしました。



▲菅野氏講演会の様子



▲座敷棟(左)と書斎棟2階(左)で解説する大平氏

第4回「きものトーク & RAKUGO ^{シエ}chez 信太郎」講師：シジル・コピーニ氏（フランス人落語パフォーマー）

10月20日（土）14:00 - 15:30 会場：鈴木信太郎記念館座敷棟 参加者：20名

秋の開館記念事業として、フランス人落語パフォーマーの尻流複写二（シジル・コピーニ）氏を招いて、前半が当館スタッフとの着物をテーマとしたトークショー、後半が落語パフォーマンスの2部構成でイベントを行いました。トークでは、コピーニ氏らの着物との出会いや洋服と和服の違い、着物の魅力といったテーマでそれぞれの着物観についてお話いただきました。落語では、古典落語の演目「^{じゅげむ}寿限無」と「初天神」の舞台をフランスに置換えて演じるという独自の落語パフォーマンスを披露され、会場はたびたび笑い声に包まれました。

第5回「旧鈴木家住宅の魅力とその特徴」講師：内田青蔵氏（神奈川大学教授）

11月10日（土）14:00 - 15:30 会場：南大塚地域文化創造館 参加者：42名

豊島区の文化財保護審議委員であり、旧鈴木家住宅の建物調査および保存・活用検討会の委員を務めるなど、当区・当館と深い関わりのある内田氏による講演会を行いました。ご専門である近代住宅史の観点から、旧鈴木家住宅の建築的特徴、現在の三棟構成に至るまでの経緯、そして建物の魅力などについてお話いただきました。講演の内容を確認するため、終了後に当館の見学に来る方もいらっしゃいました。

第6回「クリスマス・オーナメントづくり」講師：記念館学芸担当スタッフ

12月9日（日）14:00 - 16:00 会場：鈴木信太郎記念館座敷棟
参加者：8名

親子向け体験教室として、クリスマス・オーナメントづくりを行いました。館内にある様々な意匠・デザインの中から気に入ったものをスケッチしてもらい、その絵をもとにプラ板のオーナメントを作成しました。一番人気のデザインは、やはり書斎棟のステンドグラスでした。



▲コピーニ氏落語口演の様子

展示見どころ解説（7月よりギャラリートークと改称）

展示見どころ解説では、毎月第3土曜日の14時から約40分間、鈴木信太郎ってどんな人なの？展示資料にはどういったものがあるの？豊島区指定有形文化財「旧鈴木家住宅」の特徴は？といった、当館の展示をより楽しんでいただける内容をお話してきました。2018年度は全16回、計82名の方々に参加いただきました。



▲内田氏講演会の様子

開館記念事業はフランス文学に興味がある方、建築に興味を持っている方、それ以外の方などの幅広いニーズに答えられるように様々な事業を実施してまいりました。2019年度も引き続き様々な事業を行ってまいります。イベント情報については、当館ホームページやメールマガジン、「広報としま」などを通じて発信してまいりますので、気になるイベントがありましたら、ぜひご参加ください。（木下）



▲クリスマス・オーナメントづくりの様子

常設展示内「信太郎の愛蔵書」コーナー展示替え

— ステファヌ・マラルメ作『半獣神の午後』 —

Stéphane Mallarmé *L'Après-midi d'un Faune*

フランス文学に関する常設展示のうち、「信太郎の愛蔵書」コーナーでは定期的に展示替えを行い、稀覯本きこうほんの蒐集家しゅうしゅうかとしても知られる信太郎のコレクションを紹介しています。今年度は、フランス近代の象徴主義を代表する詩人、ステファヌ・マラルメ(1842-1898)の代表作『半獣神の午後』をテーマとした展示を行っています。

多くの詩人や芸術家を魅了してきた『半獣神の午後』。後にクロード・ドビュッシーが「牧神の午後への前奏曲」を作曲し、ヴァーツラフ・ニジンスキーがその音楽を基にしてバレエの名作を生み出しました。信太郎もこの詩を、「フランス詩歌の最高水準を示す作品の一つ」として高く評価しています。

この作品は、マラルメの生前に本国で単行本として3度刊行されています。1876年に発行された初版は、作者が195部限定で自費出版(名義上の発行元はA.ドレンヌ書房)したもので、愛蔵家すいざんの垂涎すいぜん的となっています。近代美術の巨匠エドゥアール・マネが手がけた挿絵、日本奉書紙に題名が純金押箔刷された表紙…。装丁の随所に作者の美意識が感じられるこの書物について、信太郎も「この詩集の美しさ、寂さびのある、深さのある美しさは、比類がない。高雅けうな稀有な清楚な完璧の書物である。」と絶賛しています。マラルメ作品の研究・翻訳における「エディション・オリジナル」(édition originale, 著者の生前に発行された出版物)の重要性を認識し、その蒐集にも力を入れていた信太郎は、この初版をはじめ、1887年に相次いで発行された第二版(独立評論社刊)、第三版(L.ヴァニエ書房刊)もすべて入手しています。

マラルメに魅せられた信太郎が、『半獣神の午後』の翻訳に取り組むようになったのは、1919(大正8)年の夏ごろからでした。彼は、「あまりに純粋な表現」ゆえに難解なこの作品の訳出のために苦吟くぎんしています。訳詩は、「フォオヌの午後 相聞牧歌エグログ」と題して1922(大正11)年の『明星』11月号に初めて発表された後、何度も稿を改めて出版されました。

なかでも信太郎が、自身が携わった書物の中で最も気に入っていると述べているのが、1933(昭和8)年に100部限定で発行された豪華翻訳本『半獣神の午後』(江川書房刊)です。その前年頃に原典初版を入手した信太郎は、自らが翻訳した日本語版も「それに負けない美本に仕立ててやろうと野心を起し」、装丁はこの版に忠実ならに倣いながらも、さらに上質の鳥子紙とりのこがみを使用し、挿絵も原寸通りに再現しています。

また、1947(昭和22)年には、東京大学における講義こうしを骨子として執筆した論文「半獣神の午後研究」を含んだ研究随筆集『半獣神の午後其他』(要書房刊)を出版しました。

今回の展示では、フランスで刊行されたエディション・オリジナル全3種(複製*)をはじめ、信太郎訳の豪華翻訳本、その本をけん献ひなつこうのすけじられた日夏耿之介や小林秀雄ら著名人からの礼状、自筆書き込み入りの「半獣神の午後研究」校正刷り(戦前に同名の単行本として発行される予定だったが未刊行)、戦後に計画されたものの実現に至らなかった幻の翻訳本の挿絵かわぐちきがい(川口軌外作、複製)等、『半獣神の午後』に関する信太郎ゆかりの品々を紹介します。(石井)



▲マネの描いた『半獣神の午後』初版挿絵

*原書所蔵：獨協大学図書館「鈴木信太郎文庫」

これからのイベント情報

ドビュッシーの音楽とフランス詩の協演 — ラの音を求めて —

『半獣神の午後』からインスピレーションを受けて作曲された「牧神の午後への前奏曲」をはじめ、没後101年を迎えるクロード・ドビュッシー(1862-1918)の音楽を、信太郎が訳したフランス詩の朗読と共に紹介します。

[日 時] 2019年8月25日(日)14:00-15:30(13:30 開場 / 受付開始)

[会 場] 南大塚ホール(豊島区南大塚2-36-1)

[演奏者] 山崎英恵氏(ヴァイオリン)、山内のり子氏(ピアノ)、石井環世氏(朗読 / 賛助出演)

[入場料] 無料(事前のお申込みは不要です。先着順で定員200名に達し次第締め切らせていただきますのでご了承ください。)

[主 催] 豊島区・公益財団法人としま未来文化財団

【南大塚地域文化創造館文化カレッジ】

フランス文学とフランス文化に親しむ(全8回)

学習院大学文学部フランス語圏文化学科の先生方による連続講演会です。文学はもちろん、音楽、映画、演劇といった分野からフランス文化の魅力・面白さについて講師の先生方にお話しいただきます。日本人にとって意外に身近な存在のフランスの諸相を再発見してください。

[日 時] 2019年9月7日～10月26日 毎週土曜日 14:00-15:30

[会 場] 南大塚地域文化創造館(豊島区南大塚2-36-1): 第6回を除く回

鈴木信太郎記念館(豊島区東池袋5-52-3): 第6回(10月12日)

[講 師] 鈴木雅生氏(学習院大学教授)、大野麻奈子氏(学習院大学准教授)、志々見剛氏(学習院大学准教授)、中条省平氏(学習院大学教授)、ティエリ・マレ氏(学習院大学教授)、田上竜也氏(学習院大学教授)、吉田加南子氏(学習院大学名誉教授)、記念館学芸担当スタッフ

*演題・日程の詳細については、当館またはとしま未来文化財団ホームページよりご確認ください。

[対 象] 豊島区在住・在勤・在学の18歳以上の方を優先する場合があります。

[定 員] 30名

[費 用] 4,300円(資料代含む)

[応募方法] 「広報としま」6月1日号、としま未来文化財団情報誌「Mirai」6月号、当館または同財団ホームページを参照の上、お申込みください。

[応募締切] 8月8日(木)必着

[主 催] 公益財団法人としま未来文化財団

*鈴木信太郎記念館・学習院大学文学部フランス語圏文化学科との共同企画です。

鈴木信太郎記念館だより 創刊号

発行日 2019年6月14日

発 行 豊島区

編 集 豊島区立鈴木信太郎記念館

〒170-0013 東京都豊島区東池袋5-52-3

TEL: 03-5950-1737

<http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/bunka/shiryokan/index.html>

